

君津製鉄所 設備部  
 土建技術グループ マネジャー

木村 孝範 (1998年入社、土木工学専攻)

## オーナーズエンジニアリングで 新たな技術・製品開発に挑む

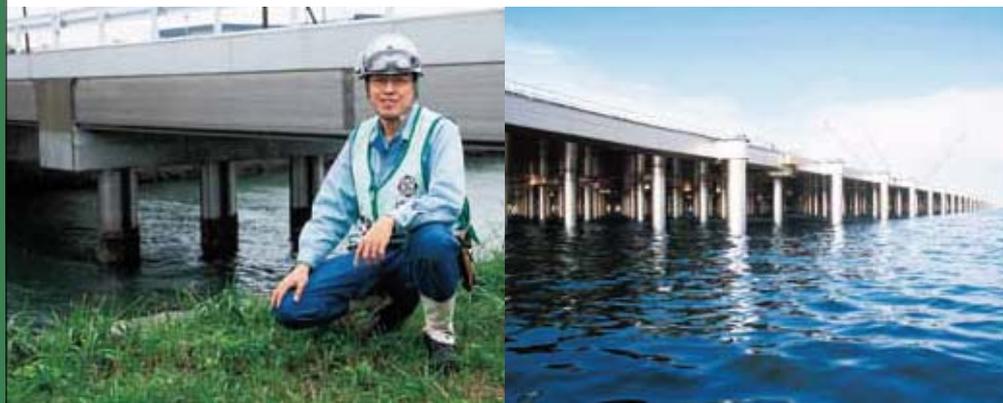


学生時代は土木工学を専攻し、地図に残る仕事がしたいと夢を描いていた。入社後は設備土建技術者として、技術開発本部で高炉炉容拡大のための基礎補強技術や短工期改修工法の開発、君津製鉄所で鉄鋼スラグ利用拡大技術やH形鋼橋梁「パネルHBB」<sup>(※)</sup>の開発など、さまざまなプロジェクトに携わり、現在は君津で設備エンジニアリングを担当している。

「製鉄所には道路、橋、線路、港湾、ダム、トンネル、工場建物、設備基礎などのインフラ資産があり、まさに社会インフラの縮図です。この大きなフィールドで私たちは、機械・電気・エネルギー部門との連携を図り、建設だけではなく操業、メンテナンスすべての分野のあるべき姿を目指し、企画から設計、建設、維持管理まで一貫したエンジニアリングを任されています」

製鉄所では、総重量200トンの特殊トラックが往来する道路や橋、高温設備が稼働する工場、振動、ガス、酸・アルカリなど厳しい条件の中で最適な土建設備を構築しなければならず、課題解決のための柔軟性とアイデアが求められる。製鉄所構内で使用に耐える土建製品は、世の中にもニーズがある。構内道路の舗装材・路盤材として使われる鉄鋼スラグ、大型トラックが通過する橋にH形鋼橋梁「パネルHBB」、耐食性・断熱性の高いチタン断熱パネルなど、さまざまなグループ製品を所内で実際に試し、商品化してきた(下写真)。

「使用条件、コスト、工期などの制約の中で、バーチャルな知識をリアルな技術へと変換し、実現可能な設計や工法に落とし込んでいくこと。それが私の使命です。これからも競争力の基盤となる所内インフラ整備に努めるとともに、オーナーズエンジニアリングで開発・実証した新たな技術・製品を世に送り出していきたいですね」



君津製鉄所第二東大橋(左)に試適用された新建材製品が、2010年にオープンした羽田空港D滑走路のジャケットに採用された(右)

※パネル HBB：床版構造の合理化、横組部材の省略化など“Simple is Best”を追求した新形式の形鋼橋梁